

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500638
法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブひと
事業所名	グループホーム夕日館
所在地	愛媛県新居浜市萩生2720番地の1
自己評価作成日	平成26年11月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

夕日館は民家を改修した昔ながらの日本家屋です。昔の我が家に戻ったような雰囲気の中、利用者定員6名で『のんびりきままに過ごしましょ～住み慣れたところで最期まで～』を理念に、職員共に泣き笑い楽しく毎日を過ごしています。ご本人やご家族の希望があれば、最期まで夕日館で過ごしていただくことができるように、看取りの実践もしています。我が家のごとく、お互い認めあいながら一日一日を大切に、生きがいを持って楽しく暮らしていけるよう支援させていただきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の「夜遊びをしてみたい。」という一言から、事業所ではご家族にも確認して、他の利用者と一緒に夜のホタル祭り、稲荷神社の市、又、事業所でもハロウィンや観月祭を催された。ハロウィンでは、法人で取り組んでいる子育て支援を通して、若い世代の親子をお誘いした。体調のこともあり居家で長時間を過ごす利用者で子ども好きな方のために、居室内におもちゃを隠し、子ども達が来ておもちゃを探してお菓子と交換するゲームを取り入れた。利用者は、子どもとのふれ合いをとても喜ばれたようだ。

その日の担当職員が利用者に「今日は何が食べたい？」とお聞きして、メニューを決めておられる。だしは昆布やいりこで取り、使用後は佃煮をつくっている。調査訪問時、職員は、利用者の隣りに座り、食事したり介助されていた。利用者に「お味はどうですか？」等と聞くと、利用者は、「ここのはいつも美味しい」と返事をされていた。職員が食事を作る様子を見て「手伝おか？」と声をかけてくれる方もあり、モヤシの根取り等のごしらせをお願いされている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月18日

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム夕日館

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

高橋 光子

評価完了日

平成 26 年 11 月 7 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 『のんびり、気ままに過ごしましょう。～住み慣れたところで最期まで～』 理念は全職員で考えた。玄関・台所に掲示、日報に記載し、常に共有し実践できるよう心掛けている。	
			(外部評価) 理事長は、理念について、日々のケアの中で、「こうしなければいけないと決めつけるのではなく、のんびり気ままに利用者のペースに合わせたケアに取り組む」ように指導されている。又、職員は、「利用者に最期までここが良いと言ってもらえるよう取り組んでいきたい。」と話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域にご親族のおられる方が入居されており、会いに来られている。自治会に加入し清掃活動や総会などに参加し、祭りの寄付の協力をさせていただいている。地域行事(ほたる祭り)に参加したり、運営推進会議や事業所が開催するお月見や花火にお誘いし交流させていただいている。	
			(外部評価) 近所の方が野菜等を持ってよく来てくださり、利用者とも顔見知りになっている。利用者や職員は、「いらっしゃい、上がって」と声をかけており、お茶を飲みながらお話しして帰るようなこともよくある。8月には、ワークキャンプで地域の中高生3名を受け入れされ、生徒は利用者と一緒に食事作り等しながら過ごし、介護や認知症について学ばれた。利用者は「孫が来てくれたみたいで嬉しい。」と喜ばれたようだ。地域の「ホタル祭り」に参加した際、知り合いの方と会った利用者は、「家が替わって今は、あそこに住んどんよ」とご自分のことを話され、一緒に事業所まで歩いて帰って来られたようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ワークキャンプ活動に参加し、認知症の理解や支援について学生の方々に実践を通じ学んでいただいた。また、自治会清掃時などに相談を受けたりすることもある。相談内容によっては、当事業所スタッフだけではなく、法人理事長、居宅介護支援専門員にも相談している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 生活状況やタ日館の活動状況を報告している。ご意見をいただいたときは、職員と話し合い今後のサービスに活かすようにしている。また、要望や質問等あった場合には、意見交換をしたり相談等している。皆さんが参加できる方法を考え、夜に会議をし、同時にお月見をしてみた。場所を居間にし、輪になって会議をしたこともあり、話がはずみ有意義な意見交換ができた。</p> <p><b>(外部評価)</b> 会議には、訪問看護や居宅介護事業所の方、地域ボランティア、ご家族が参加されており、又、理事長や管理者のほかにも、職員が順番に参加されている。会議時には、事業所の行事等や、さらに、虐待防止・感染症対策について等の勉強会を行っておられる。職員と近所の方の世間話の中でAEDのことが話題となり、AEDを消防署から借りて、近所の方も誘い、使用方法等の講習会を行われた。事業所周辺に住むお年寄りが行方不明時の連絡体制等について、話し合ったこともある。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 市へメールで待機者状況の連絡をし、また市よりメールで研修や介護情報等いただいている。生活保護の方も入居されており、福祉課とも密に連絡をとっている。運営推進会議には包括支援センターの担当職員が参加され、意見をいただいている。また、2か月に1回程度介護相談員も来所されている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 今年度から、新居浜市が、65歳以上の方のボランティア活動を支援する「介護支援ボランティア事業」を始めるため、事業所では、受け入れのための説明会に参加された。ボランティア活動には、地域包括支援センターでの講習が必要であるが、「各事業所で講習する等して、もっと気軽に参加してもらえ体制作りを進めてもらいたい。」と意見を述べられた。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 身体拘束をしないケアに全員で取り組み、どのような時どのようなことが身体拘束に当たるのか、内部研修をして共有している。日中は玄関や窓に施錠せず、利用者が自由に出入りできるようにしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 玄関は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。入院中、つなぎ服を着用していた方が退院され、ご家族は「迷惑をかけるから事業所でも着せてほしい」と言われるようだが、事業所からは、「つなぎ服着用は身体拘束に当たる」ことを説明された。ご家族の心情や衛生面のこと等もあり、現在、ケアについて職員で思案中であった。</p>	利用者が快適に過ごせるような支援に向けて、利用者ご本人の立場に立ち、原因や傾向を探る取り組みをすすめ、ご家族も一緒に話し合いを続けてほしい。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の内容を全員で共通理解できるように内部研修を行っている。また、職員同士が相互に心理的な虐待の可能性などを指摘し合い、事業所会等ではなしあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、研修への参加や勉強会を実施し、必要があればご家族への情報提供ができるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、法人理事長及び管理者が契約書・重要事項説明書・運営規定・情報提供票などの内容に沿って説明し、利用者・ご家族等の不安や疑問を伺い、理解していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。また、ご家族が来所された時には声をかけ、利用者の報告やご家族からの意見要望等お聞きできる雰囲気づくりをしている。意見や要望は、職員・法人理事長と話し合い運営に反映できるよう努力している。	
			(外部評価) 家族会や法人の総会に、ご家族も参加いただけるよう呼びかけている。総会は、法人の施設を利用しているご家族や関わりのある地域の方も来られ、100名程が参加される。事業所からは、行事や日々の様子等のスライドショーもあり、ご家族に好評のようだ。玄関の意見箱の活用を働きかけたが、ご家族からは「何かあれば直接言うかから大丈夫。」とお返事があったようだ。ご家族には、毎月利用料金を持参していただくようにしており、利用者と一緒に過ごしてもらいながら様子を見てもらったり、ご家族の近況をお聞きしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回開催している事業所会・定例会で職員の意見や提案を聞き、運営に反映できるように話し合い努力している。	
			(外部評価) 毎月の職員が集まるチーム会で、事業所の懸案事項を話し合ったり、ヒヤリ・ハット事例についても検討をされている。深いお皿で食べにくそうにする利用者の支援について、すべての職員で検討されたこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 当法人は、「雇われない働き方」一人ひとりが経営者であり労働者であるという自立した働き方なので、各自が個々の環境・条件の中で、やりがいや向上心を持って働けるように職員全員で話し合っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職務・職種に応じた研修に参加している。また、色々な研修会等への案内をし、職員自身で研修を選択し参加できる機会がある。勉強した内容は、内部研修をし、当事業所にあった内容で実践できるように話し合っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ケアマネ協議会主催研修会や地域密着型の相互研修などに参加し、相互訪問を通じて他事業所の職員と交流している。また、認知症フォーラム全国大会等へも参加しサービスの質の向上を図っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接や見学時に、困りごと不安、要望等じっくりご本人にお聞きしている。また、在宅担当介護支援専門員や事業所・家族からも情報や要望をお聞きしている。入居後も安心して暮らしていただけるよう、その場その場でお話を聞かせていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込み時や事前面接・見学時に、今何がお困りなのか、不安や入居にあたっての要望など時間をかけてお聞きしている。相談内容によっては、アドバイスしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者を支援していく中で、ご本人やご家族等から得た情報をもとに必要であるサービスを他職種で話し合い、プランに位置付ける。必要であれば、同一法人内でのデイサービス利用も含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯物や食材の下ごしらえなど、できることを利用者と職員が共同でしている。お互いに尊敬の気持ちを持って接することが出来るように努め、一緒に楽しんだり笑ったり共に過ごすことができています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出や行事には、ご家族にも声かけし利用者と一緒を楽しんでいただいている。また、たびたび来所されるご家族と一緒に食事やお話をしたり、遠くからこられる家族には泊まらせていただくこともある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人がこれまで築いてきた関係が途切れないように、馴染みの人が訪問しやすいオープンな雰囲気作りを心掛けている。友達が遊びにこられたり、誕生日には友達と食事に行かれることもある。入所前に利用していたデイサービスに行き、お仲間や慣れ親しんだ場所で過ごせる支援をしている。	
			(外部評価) 法人のデイサービスに通っていた方からの希望で、職員はデイ職員と連絡を取り合い、会えるよう支援しているケースがある。「自宅に帰りたい」思いが強い方には、ご家族とも話し合い、自宅に帰る時間を作って支援されている。利用者が以前住んでいた地域のお祭りに出かけられるよう支援した際には、近所の方等が声をかけてくれて、ご本人はたいへん喜ばれたようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間の日頃の様子に気を配り、相性や身体状況を考慮し、居間の席の位置など工夫している。利用者同士が共に過ごす時間を大切にし、レクリエーションや食事など職員も関わりながら、できる限り居間で過ごせるように声掛けを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した(死亡)利用者のご家族が、今でも新聞で折ったゴミ袋を持って定期的に訪問してくださっている。ご家族も高齢者で、いろいろな不安など、訪問して下さった時間を活用し相談を受けできる助言をしている。運営推進会議のメンバーにもなって頂いている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の思いや意向、その時々を言葉で生活の中で聴いて記録し、職員間で共有し検討している。意思表示が困難な利用者の場合は、ご家族と相談したり過去のご本人の希望、意向をふまえ、ご本人の思いに寄り添えるように職員間で意見交換しながら検討している。 (外部評価) 職員は、利用者の言葉や様子を観察して記録することで、個々の思いや意向の把握に努めておられる。利用者の「夜遊びをしてみたい。」という一言から、事業所ではご家族にも確認して、他の利用者と一緒に夜のホタル祭り、稲荷神社の市、又、事業所でもハロウィンや観月祭を催された。ハロウィンでは、法人で取り組んでいる子育て支援を通して、若い世代の親子をお誘いした。体調のこともあり居室で長時間を過ごす利用者で子ども好きな方のために、居室におもちゃを隠し、子ども達が来ておもちゃを探してお菓子と交換するゲームを取り入れた。利用者は、子どもとのふれ合いをとっても喜ばれたようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご本人・家族・居宅介護支援専門員から情報をいただいている。入居前に利用していたサービスなどの情報もいただいている。また、日常生活の中で話をするときなどに、折にふれ昔話や懐かしい話などをお聞きしている。お聞きした内容は記録し、職員間で情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの日常生活リズムを把握し、出来ることに目を向けながら定期的にアセスメントをしている。心身の状態、利用者からの訴えなど記録を充実させている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ケアカンファレンスを開催し、ご本人・ご家族・職員・医療関係者などに意見を求め話し合い、介護計画を作成している。ご本人のこだわりや希望などは、日常生活の中で聞き取ったことを計画に取り入れている。また、定期的にモニタリングし、ケア目標を見直している。(期間は一人ひとりに合わせている)</p> <p>(外部評価) 事業所独自のアセスメントシートには、生活歴、ADL、生活リズム等、利用者からの情報やご家族から聞き取った情報が記入されている。それらの情報をもとに、利用者、ご家族、担当職員、計画作成担当でサービス担当者会議を行い、計画を作成されている。毎月モニタリングを行っており、様式には目標の達成状況や利用者本人の満足度を記入する項目を設けている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアの目標に添ってケアが実施できているかどうか、日常生活の状況や利用者の言葉を個別で記録し、情報を共有している。また、カンファレンスで個別の担当者が経過を報告し、意見交換した上でケアの目標の見直しを行っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族状況、利用者一人ひとりの希望に沿い、通院・外出・散髪・デイサービス参加・プログラムなどの支援をしている。法人内のデイサービスからの利用者の訪問や、デイサービスに遊びに行くこともある。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ボランティアの三味線や歌ごえひろば、ヤクルトの訪問販売の受け入れをしている。また、地域の行事に参加したり、買い物や他事業所行事などへ出かけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人・家族の希望により、訪問看護・主治医には24時間連絡可能な状態で、個々の主治医に往診・受診していただいている。往診・受診時には、利用者の情報を主治医に報告している。また必要があれば、ご本人・家族・主治医と相談し協力医院の紹介をしている。</p> <p>(外部評価) 月2回、協力医の往診がある。毎朝、利用者のバイタルサインや気になる様子があればFAXにて訪問看護事業所へ報告し、指示やアドバイスをもらえるようになっている。訪問看護師とは24時間連絡を取る事ができ、医師とも連携してくれている。終末期に必要な在宅医を考慮し、ご家族等は、これまでのかかりつけ医を協力医に変更するケースもある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 24時間連絡可能な訪問看護ステーションと契約し、毎日の健康状態(バイタル等)を報告している。また、いろいろな気づきも伝え、状態の相談をしながら適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 利用者が入院した場合は、病院に情報を提供したり、家族と共に治療の方針や早期退院に向けたカンファレンスに参加している。また、安心して治療ができるように、病室訪問をし支援している。入院前後の受診には、家族と共に行くようにしている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時、重度化した場合や終末期(看取りの指針)の話し合いをしている。また、家族の気持ちは揺れ動くので、その時々で状況で繰り返し話し合いを行っている。家族・かかりつけ医・訪問看護ステーション・職員参加のサービス担当者会議を行い方針を共有しチームで取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 今年度、利用者の希望に沿って、事業所で看取りを支援した事例がある。意識のない状態が4ヶ月程続いたが、職員は、頻繁に声かけをしてご家族と看取られた。ご家族が来られた時には、利用者の方と2人で過ごす時間を持てるよう、そっとお部屋の扉を閉め配慮したり、ゆっくり居られるようお茶や食事をすすめられた。最期を過ごす利用者の様子を見て、他利用者からは、「私もそうしてもらえんよね。」と確認の声も聞かれ、職員は「最期まで一緒にいますよ。」と返事をされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時のマニュアルを作成している。定例会で研修をしたり、ケアカンファレンス時確認、訓練等重ねている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中、夜間それぞれで緊急連絡の訓練をしている。また、消防署に協力を得て避難訓練を行い、避難経路等の確認を行っている。防災グッズ・非常食を定期的に点検し、災害時には一時避難先として近所の方をお願いしている。 (外部評価) 年2回、避難訓練を実施しており、内1回は、消防署の協力がある。訓練には利用者も参加して、職員と一緒に水消火器を用いた消火訓練を体験されている。何かあった際には近所の方が駆けつけてくれるようになっており、「何かあったら鍋でも叩いて知らせしてほしい。」と言われている。ひとり暮らしのご家族の中には、台風の時には、利用者の安心とご自身の身の安全のために、事業所に避難して来られる方もある。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重する言葉かけや対応を心がけている。また、プライバシーに配慮し、プライドを傷つけないように心掛けている。 (外部評価) 利用者に接する際、職員は声かけより先に行動することがないように、利用者にお聞きしてから介助することに気を付けておられる。職員は、利用者に水分を多く摂ってもらえるよう再々勧めてしまいがちになるが、「自分が利用者の立場だったら嫌だ」と自分の身に置き換えて考え、個々に様子やタイミングをみながら勧めることに心がけておられる。廊下に面した居室は、人が行き交うことが多いため、プライバシーに配慮して入口に暖簾をかけておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の話や言葉を良く聴き、状況を見極め希望に沿えるよう支援している。その日食べるおやつをご自分で選んでいたたり、その日に着る洋服もその日の気分ですれがいいか選んでいただける様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活上での流れを大切にしながらも、利用者一人一人のペースや思いを大切に、出来る限り希望に添えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は、馴染みの美容室に家族と出かけたり、訪問理容を利用したりしている。また、その人に似合う服を選んだり、肌を整えたり、その時々で希望にそった支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みや食べたいものをお聞きし、季節の食材を取り入れながら食事作りをしている。利用者が重度化しているため、下ごしらえ等職員と一緒にできることが少なくなっているが、できる範囲で準備や片づけをしていただき一緒に食事をしている。	
			(外部評価) その日の担当職員が利用者に「今日は何が食べたい?」とお聞きして、メニューを決めておられる。だしは昆布やいりこで取り、使用後は佃煮をつくっている。調査訪問時、職員は、利用者の隣りに座り、食事したり介助されていた。利用者に「お味はどうですか?」等と聞くと、利用者は、「ここのはいつも美味しい」と返事をされていた。職員が食事を作る様子を見て「手伝おか?」と声をかけてくれる方もあり、モヤシの根取り等の下ごしらえをお願いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事や水分は、適切な量が摂取できる様にその都度記録している。普通食が困難な利用者には、必要に応じトロミをつけたり刻み食、補助食品等の食事形態に対応し、口から食べる工夫をして一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者一人ひとりで支援の方法は異なる。ご自分で出来る方は、職員が声かけし義歯洗浄などを促している。全介助の方は毎食後口腔ケアをしている。状態の変化でできること、できないことを見極めながら行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた声かけや誘導をしている。身体的にオムツ利用を余儀なくされている方は、心身の状態や時間帯などでオムツやパットの種類等の工夫をしている。	
			(外部評価) 転倒が心配される利用者の中には、職員と一緒に居ると排泄し難い方もあり、職員は外で見守るようにしておられる。又、トイレ使用に時間をかける利用者もあり、職員の手が必要な時にはご自分で呼べるよう、トイレ内に鈴を置いている。日誌には、利用者個々の排泄状況を記入し、職員は確認しながら支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者一人ひとりの排便のパターンを把握し、食事(食物繊維)・水分・レクリエーション運動で排便を促すよう工夫している。また、医師の指示のもと、便秘薬も個々に応じて適切に服薬支援している。また、腹圧がかかり排便しやすい姿勢での排泄介助をしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回入浴日に声かけしお誘いしているが、季節や利用者個々の体調・希望に合わせて臨機応変に対応している。また、その時々で入浴剤選びなど楽しんでいただいている。	
			(外部評価) 主に月・水・金の午後が入浴時間となっている。又、利用者の体調や汚れがあれば、随時対応されている。浴室には一般家庭のような浴槽を設置しており、深めの造りではあるが、職員2名で介助し、安心して湯船で温まれるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や前夜の睡眠時間により、日中の休息等を声かけし促している。また安心して気持ちよく眠れるよう、離着床など個々のペースに合わせて支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、処方箋や訪問看護師の指導もあり、薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。また、服薬状況・服薬による変化は記録し確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 身体機能が重度化されておられる利用者が多く、出来ることが少なくなっているが、洗濯たたみや食事の下ごしらえなど役割をもって過ごされている。また、気分転換にドライブや散歩、ボランティアさんの三味線やキーボードに合わせて一緒に音楽を楽しむことができるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常生活の中で、昔話やテレビを見ながらなどの場面で、どこに行きたいかお聞きするように努力している。お花見・ドライブ・買い物・散歩・外食等、ご本人の希望で外出をしている。また、ご自分の家の地域の夏祭りなどに、ご家族や職員と一緒に出掛けている。	
			(外部評価) 天気の良い日には庭でひなたぼっこしたり、季節に応じて桜や梅見物や紅葉狩り、初詣に出かけられるよう支援されている。利用者の体調や希望に応じて、散歩や買い物に出かけることもある。	理事長は、利用者の「夜遊びがしたい」という言葉がきっかけで取り組みが広がったことで、さらに、利用者個々の希望に応じて支援したいと話しておられた。今後も、事業所ならではの外出支援を工夫して、利用者の楽しみや地域とのつながりを作っていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人でお金の管理ができる入居者は、ご自分で持っておられ、ヤクルトなど購入されている。お金の管理ができない入居者の方は、ご家族と相談の上、希望・能力に合わせて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 固定電話はご本人からの希望により、職員がお手伝いさせていただきながらできるような支援をしている。また、書ける利用者は年賀状などお友達や家族に送れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 夕日館が民家改修型のグループホームなので、利用者が昔から暮らしてきた馴染みの空間である。室温や湿度には特に注意を払っている。部屋のレイアウト庭の花々等、季節を感じながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所は民家改修型で玄関や上り口は段差があるが、車椅子でも利用できるよう、必要な部分は段差解消されている。居間には4枚の襖があり、季節ごと利用者と一緒に飾り付けをしており、来訪者も楽しみにしている。雑誌や新聞が置いてあり、午前中、広告を広げて見ている方がおられた。又、午後からは数人がテレビを囲み、お好きな漫談のDVDを見ておられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居間にはテレビ・DVD・CD・雑誌などがあり、利用者個々で思い思いに過ごせるように支援している。また、利用者同士でお話ができるような空間作りをしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居時に、本人・家族と相談の上使い慣れた好みの家具や寝具を持ってきていただいて、居心地良く過ごせるよう支援している。また、ご家族の写真や思い出の品を飾れるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、ベッド、カーテンが備え付けられており、それ以外のご自宅から持ち込んでもらえるようお願いされている。体調面から居室で過ごす時間が長い利用者の居室は、他利用者の話し声や様子が見られるようベットの配置等を工夫し、扉を開けてあった。お部屋のコルクボードには利用者の外出や行事の際の写真が貼ってあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を考え、本人・家族と相談しながら家具の配置等工夫している。また、手すりの設置やトイレ、洗面所の改修により、利用者一人ひとりの能力に合わせた安全な生活が送れるよう工夫している。</p>	